



農業支援サービスの 普及に向けた 分析レポート（畜種）

令和6年11月

農林水産省大臣官房統計部統計データ分析支援チーム
（農業支援サービスKPIチーム）

農業支援サービスについて

- 農林水産省は、生産現場における人手不足や生産性向上等の課題に対応し、農業者が営農活動の外部委託など様々なサービスを活用することで経営の継続や効率化を図ることができるよう、「農業支援サービス」の定着を促進している。
- 農業支援サービスとは、不特定の農業者等に対して対価を得てサービスを提供することをいい、ドローン散布等の作業受託やデータ分析、農業機械のシェアリング、農業現場への人材供給等がある。
- これまで農林水産省では、農業者等が各種農業支援サービスを比較・選択できる環境の整備に向け、農業支援サービスの概要や対象地域・品目、サービスを利用する際にかかる料金等サービス提供事業者が表示すべき情報等の指針として「農業支援サービス提供者が提供する情報の表示の共通化に関するガイドライン」を策定するなど、普及対策に取り組んできた。

目次

1. 分析の概要

分析の目的や方針、使用したデータ等

2. サービスの特徴

I～IVのグループ別にみたサービス利用状況の特徴

3. 分析結果

II～IVのグループ別にみた分析結果の特徴

4. 対前年比較

I～IVのグループ別にみた対前年の特徴



The slide features several large, overlapping geometric shapes in teal, green, and yellow. In the top right, there is a teal triangle pointing down, a green parallelogram, and a yellow diamond. In the bottom left, there is a teal triangle pointing right, a green parallelogram, and a yellow parallelogram. The text is centered on the left side of the slide.

1. 分析の概要

(1) 分析の目的

分析の目的

- 畜種(*)の3部門について、農業支援サービスの現在の利用状況や、将来の利用意向を明らかにする。
- 畜種の3部門について、農業支援サービスの普及を進める対策検討のための示唆を得るとともに、農業支援サービスの提供事業者にとっても役に立つ知見を示す。

*畜種とは、令和5年度農業支援サービスに関する意識・意向調査の問1（過去1年間の販売金額が1位の部門）における酪農・肉用牛・その他畜産（養豚や養鶏など）の3部門を指す。

使用したデータ

- [令和5年度農業支援サービスに関する意識・意向調査](#)

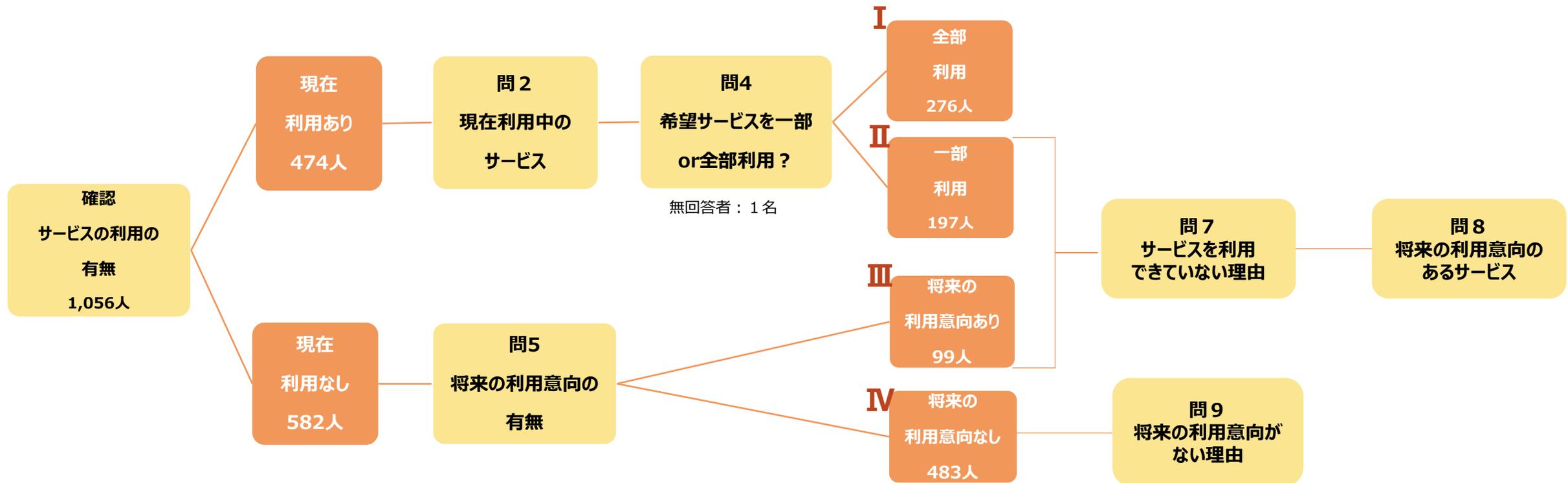
令和5年8月下旬～9月下旬に実施されたアンケート調査。
2020年農林業センサス結果を基に選ばれた、認定農業者等
がいる個人経営体の世帯主及び団体経営体の代表者である農
業者 10,351 人から回答を得た。

- 2020年農林業センサス農林業経営体調査

(2) グループの区分

- 令和5年度農業支援サービスに関する意識・意向調査の質問項目の概観は以下のとおり。
- 回答状況により回答者をⅠ～Ⅳの4グループに区分する。

(本レポートは耕種又は畜種の部門未回答者は78名は除外)



(3) グループⅠ～Ⅳの説明

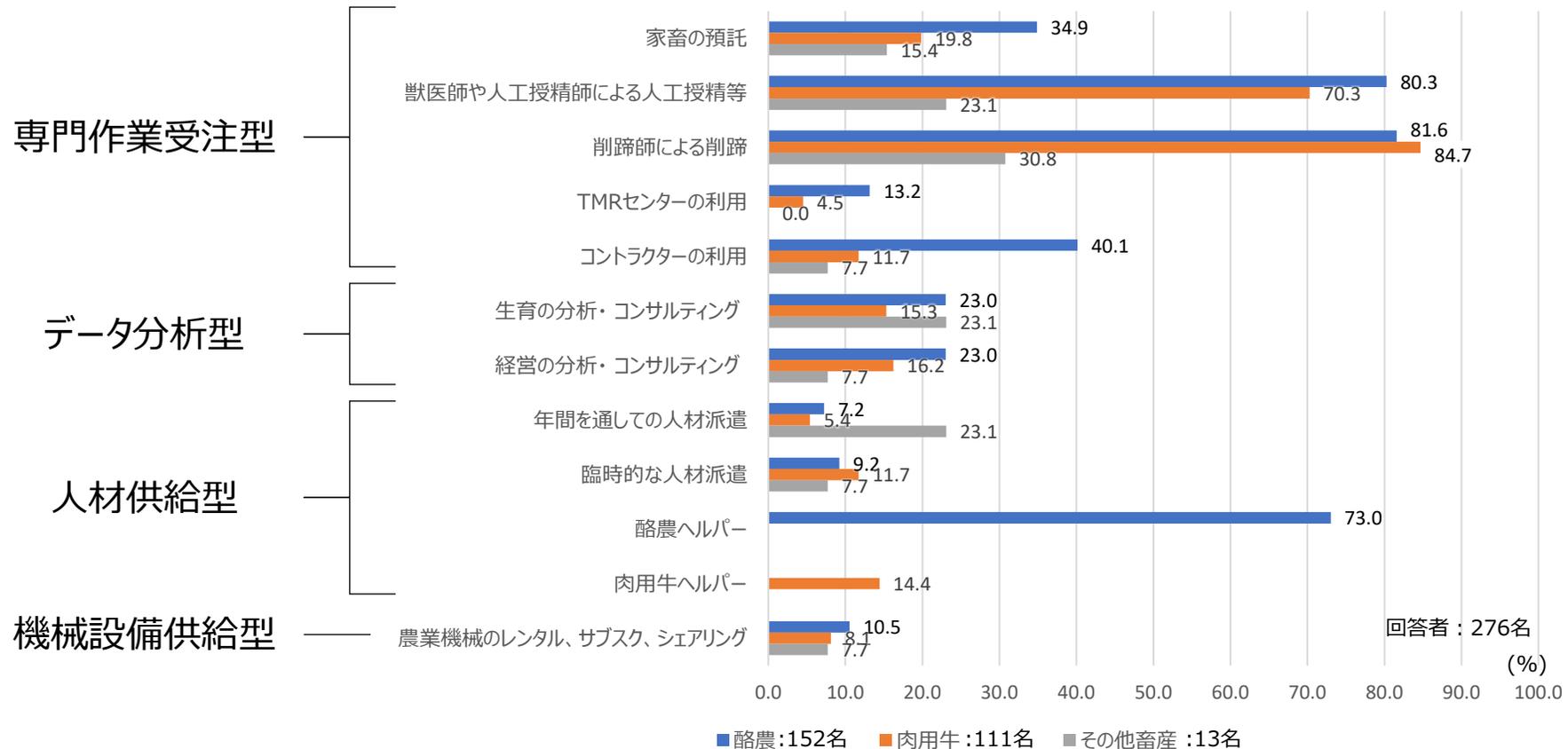
	現在の 利用状況	将来の 利用意向	グループの説明
Ⅰ	○ (全部利用)	— ※回答非対象	現在希望する全ての農業支援サービスを利用していると回答したグループ
Ⅱ	△ (一部利用)	○	現在希望する一部の農業支援サービスは既に利用しており、かつ、利用中の農業支援サービス以外の利用を希望していると回答したグループ。
Ⅲ	×	○	現在農業支援サービスは利用していないが、今後の農業支援サービスの利用を希望していると回答したグループ。
Ⅳ	×	×	現在農業支援サービスは利用しておらず、今後の農業支援サービスの利用も希望していないと回答したグループ。

The background features several overlapping geometric shapes in teal, green, and yellow. In the top right, there is a teal triangle pointing down, a green parallelogram, and two yellow diamonds. In the bottom left, there is a teal triangle pointing right, a green triangle pointing down, and a yellow parallelogram.

2. サービスの特徴

(1) グループ I の現在の利用状況

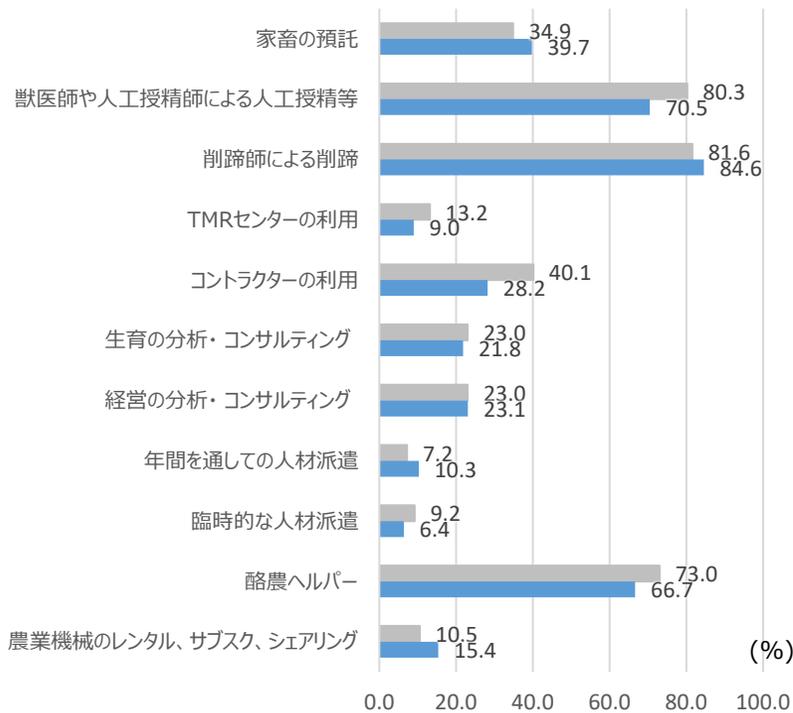
- グループ I における個別のサービスの利用状況は下図のとおり。(複数回答)
- 畜種の3部門に共通して、「獣医師や人工授精師による人工授精等」、「削蹄師による削蹄」を利用している割合が高くなっている。
- 一方、「TMRの利用」、「年間を通しての人材派遣」、「臨時的な人材派遣」、「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」では利用している割合が低くなっている。



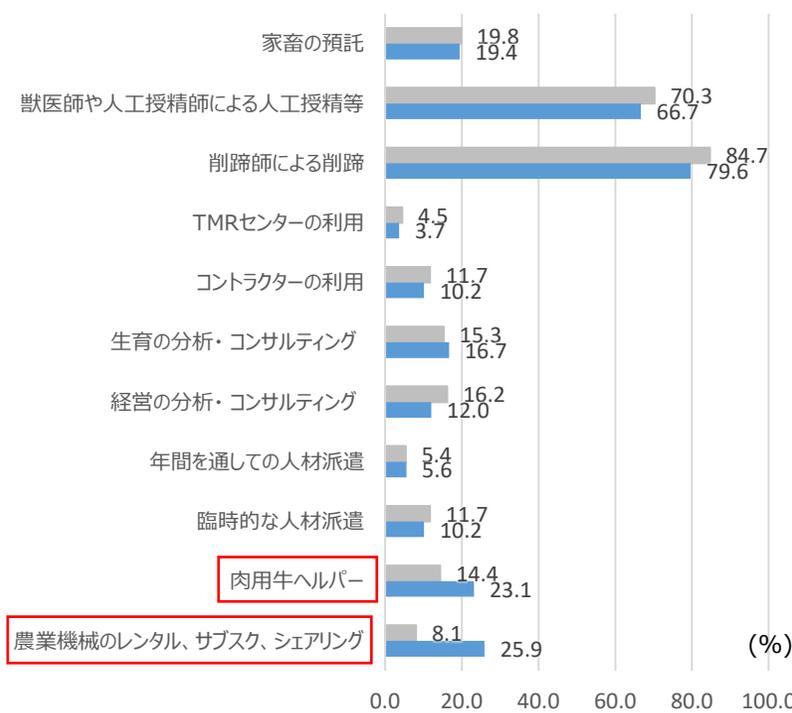
(2) グループⅡの現在の利用状況

- グループⅡにおける個別のサービスの利用状況は下図のとおり。(複数回答) (□ はⅡの回答率がⅠよりも8ポイント以上高いサービス)。
- 酪農では、グループⅡとグループⅠの現在の利用状況を比較すると、グループⅠと同様に「家畜の預託」、「獣医師や人工授精師による人工授精等」、「削蹄師による削蹄」、「酪農ヘルパー」を利用している割合が高くなっている。
- 肉用牛では、グループⅡとグループⅠの現在の利用状況を比較すると、特に「肉用牛ヘルパー」、「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」において、グループⅡの方が利用している割合が高くなっている。
- その他畜産では、グループⅡとグループⅠの現在の利用状況を比較すると、特に「家畜の預託」、「経営の分析・コンサルティング」、「年間を通しての人材派遣」、「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」において、グループⅡの方が利用している割合が高くなっている。

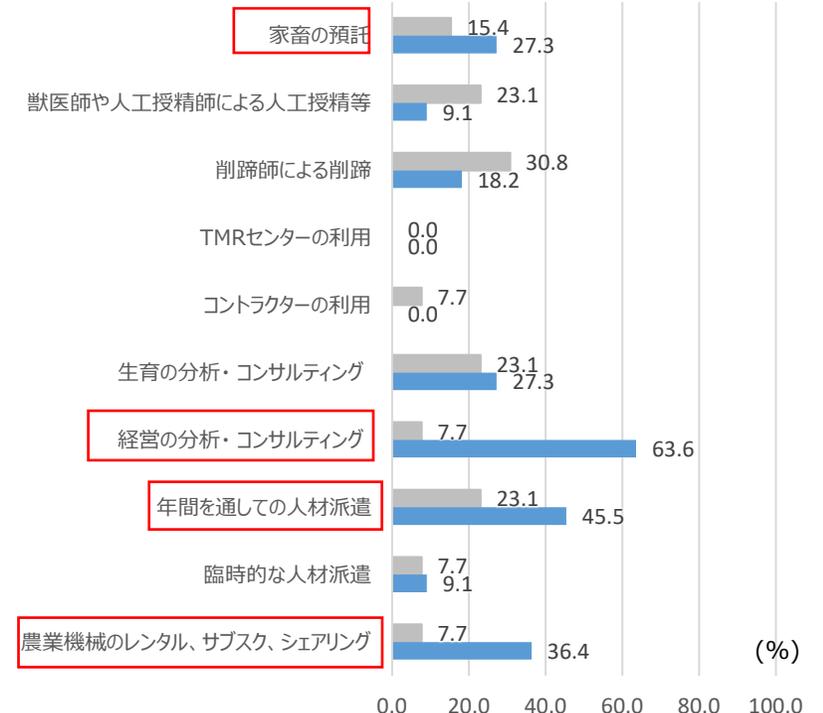
【酪農】



【肉用牛】



【その他畜産】

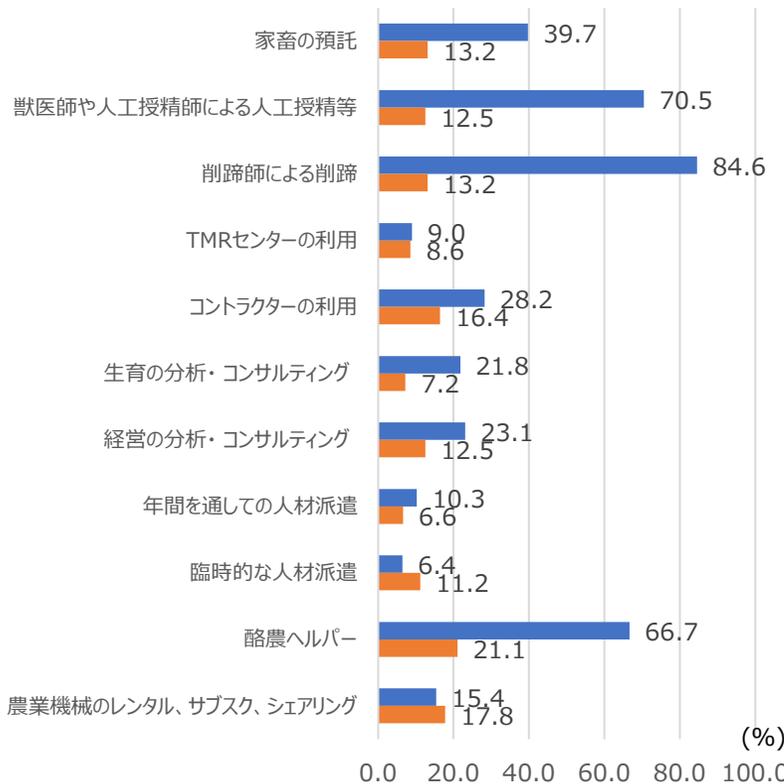


■ グループⅠの利用状況【酪農:152名、肉用牛:111名、その他13人】
 ■ グループⅡの利用状況【酪農:78名、肉用牛:108人、その他:11人】

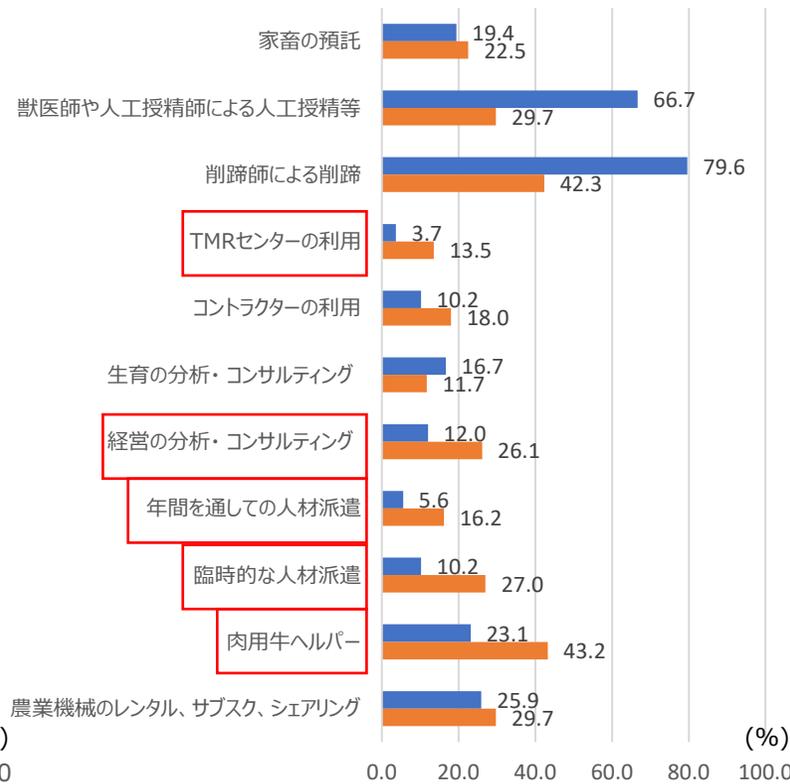
(3) グループⅡの将来の利用意向（現在、利用しているサービス以外）

- グループⅡにおける個別のサービスの将来の利用意向は下図のとおり。（複数回答）（ は利用意向の回答率が現在の利用状況よりも8ポイント以上高いサービス）。
- 肉用牛の現在の利用状況と将来の利用意向を比較すると、特に「TMRセンターの利用」、「経営の分析・コンサルティング」、「年間を通しての人材派遣」、「臨時的な人材派遣」、「肉用牛ヘルパー」において、現在の利用状況よりも将来の利用意向の割合が高くなっている。
- その他畜産の現在の利用状況と将来の利用意向を比較すると、特に「臨時的な人材派遣」において、現在の利用状況よりも将来の利用意向の割合が高くなっている。

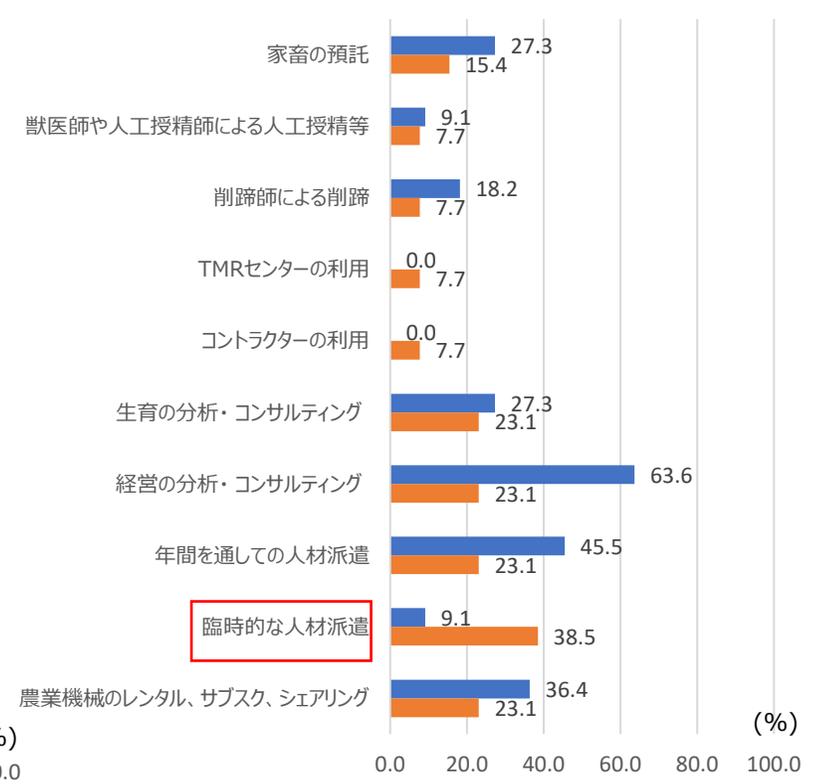
【酪農:78名】



【肉用牛:108名】



【その他畜産:11名】



注：図のグループⅡ将来の利用意向がある者の内訳は、① 当該サービスの未利用者のうちサービスの利用を希望する者。② ①加えて、当該サービスを利用している者うち当該サービスの中で利用できていないサービス内容の利用を希望する者。

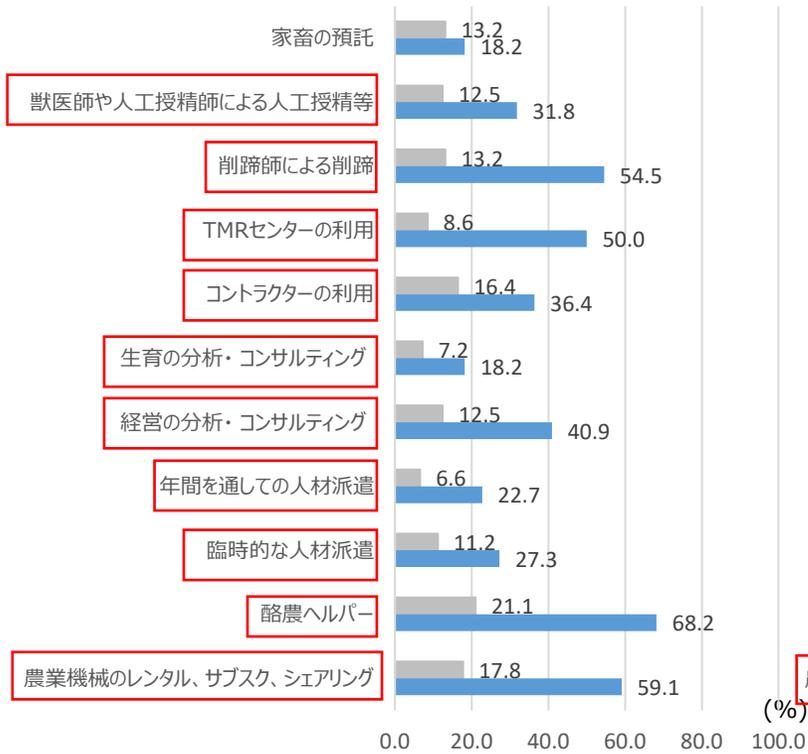
■ グループⅡの利用状況

■ グループⅡの将来の利用意向

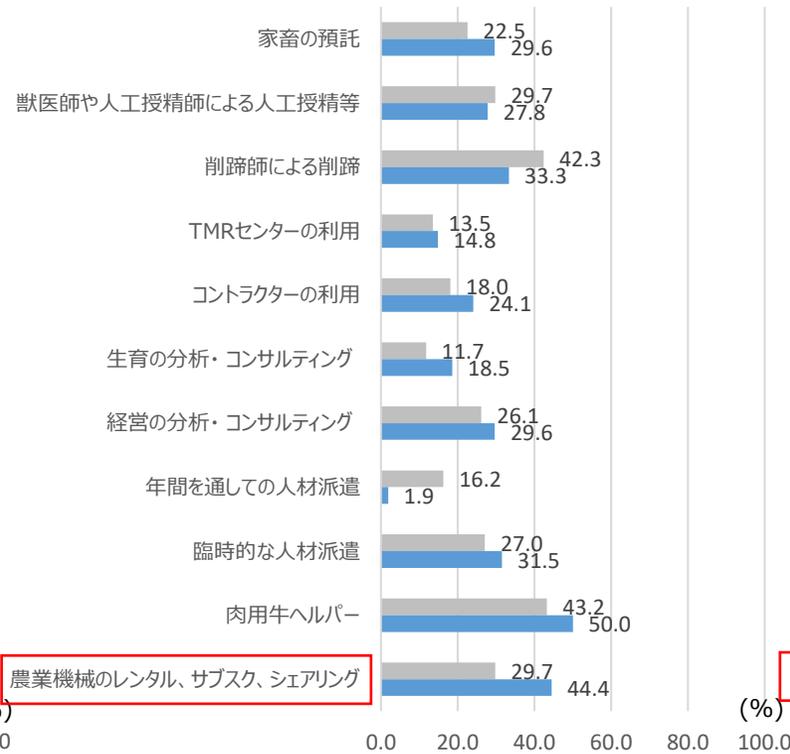
(4) グループⅢの将来の利用意向

- グループⅢにおける個別のサービスの将来の利用意向は下図のとおり。(複数回答) (はⅢの回答率がⅡの回答率よりも8ポイント以上高いサービス)。
- 酪農では、グループⅢとグループⅡの将来の利用意向を比較すると、全てのサービスにおいて、グループⅢの方が利用意向の割合が高くなっている。
- 肉用牛及びその他畜産では、グループⅢとグループⅡの将来の利用意向を比較すると、特に「農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング」において、グループⅢの方が利用意向が高くなっている。

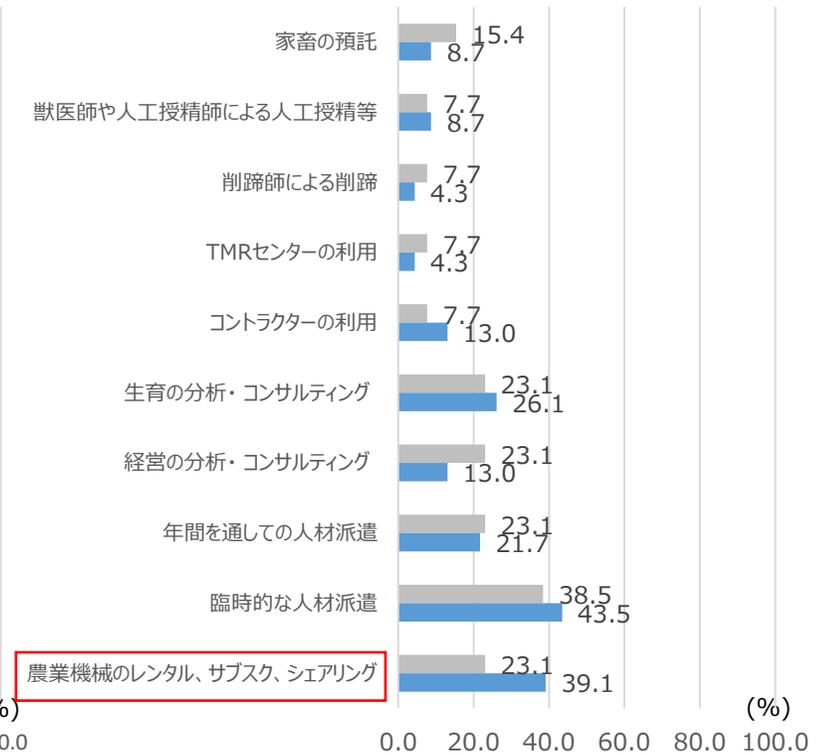
【酪農】



【肉用牛】



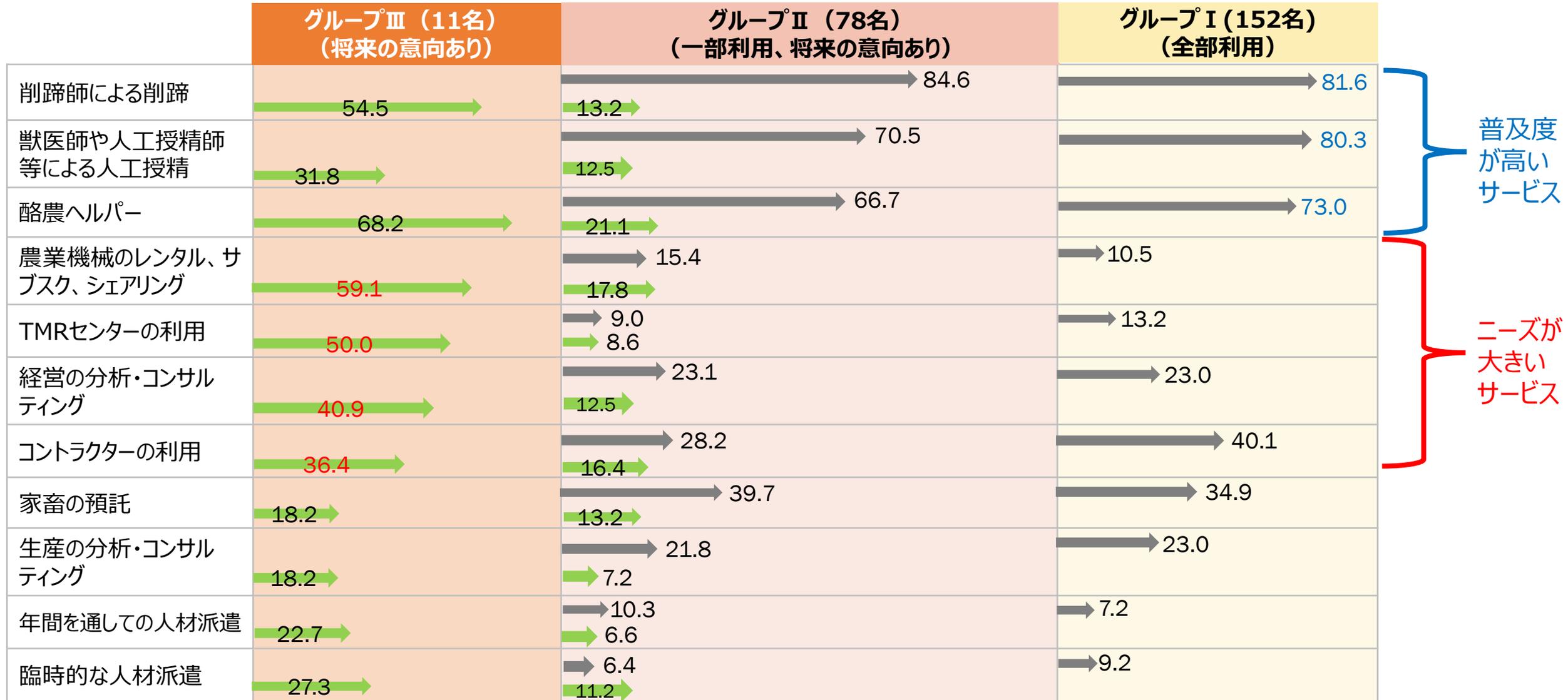
【その他畜産】



■ グループⅡの利用意向【酪農: 78名、肉用牛:108人、その他:11人】
 ■ グループⅢの利用意向【酪農: 22名、肉用牛: 54人、その他:23人】

(5) サービスの特徴 (酪農まとめ)

 現在の利用状況 (%)
 将来の利用意向 (%)



↑肉用牛ヘルパーは除外

↑数字 (%) はⅢの将来の利用
意向より抜粋

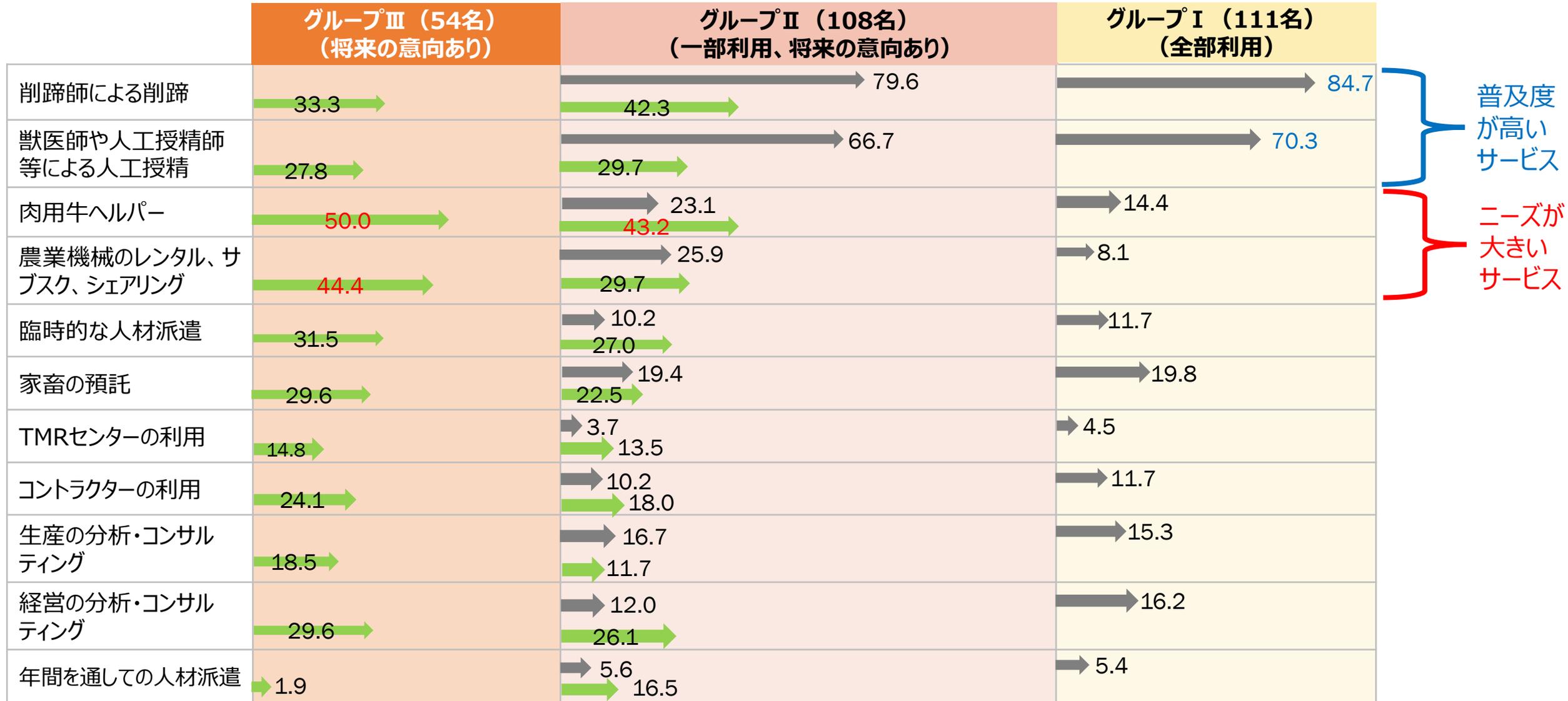
↑数字 (%) はⅡの現在の利用状況及び将来の利用意向
より抜粋

↑数字 (%) はⅠの現在の利用状
況より抜粋

※①普及度が高いサービス = グループⅠで利用している割合が50%以上、②ニーズが大きいサービス = ①以外でグループⅡ又はⅢの将来の利用意向が35%以上のサービスとした。

(6) サービスの特徴 (肉用牛まとめ)

 現在の利用状況 (%)
 将来の利用意向 (%)



↑酪農ヘルパーは除外

↑数字 (%) はⅢの将来の利用意向より抜粋

↑数字 (%) はⅡの現在の利用状況及び将来の利用意向より抜粋

↑数字 (%) はⅠの現在の利用状況より抜粋

※①普及度が高いサービス = グループⅠで利用している割合が50%以上、②ニーズが大きいサービス = ①以外でグループⅡ又はⅢの将来の利用意向が35%以上のサービスとした。

(7) サービスの特徴 (その他畜産まとめ)

 現在の利用状況 (%)
 将来の利用意向 (%)

	グループⅢ (23名) (将来の意向あり)	グループⅡ (11名) (一部利用、将来の意向あり)	グループⅠ (13名) (全部利用)
臨時的な人材派遣	43.5	36.4	7.7
農業機械のレンタル、サブスク、シェアリング	39.1	23.5	7.7
家畜の委託	8.7	27.3	15.4
獣医師や人工授精師等による人工授精	8.7	9.1	23.1
削蹄師による削蹄	4.3	18.2	30.8
TMRセンターの利用	4.3	0.0	0.0
コントラクターの利用	13.0	0.0	7.7
生産の分析・コンサルティング	26.1	27.3	23.1
経営の分析・コンサルティング	13.0	63.6	7.7
年間を通しての人材派遣	21.7	45.5	23.1

ニーズが大きいサービス

↑酪農ヘルパー・肉用牛ヘルパーは除外

↑数字 (%) はⅢの将来の利用意向より抜粋

↑数字 (%) はⅡの現在の利用状況及び将来の利用意向より抜粋

↑数字 (%) はⅠの現在の利用状況より抜粋

※①普及度が高いサービス = グループⅠで利用している割合が50%以上、②ニーズが大きいサービス = ①以外でグループⅡ又はⅢの将来の利用意向が35%以上のサービスとした。14

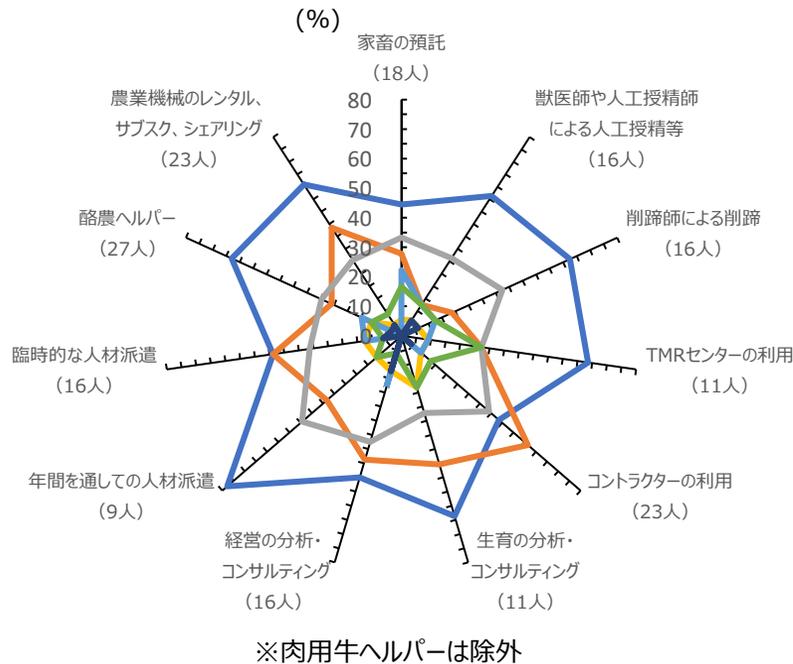
3. 分析結果



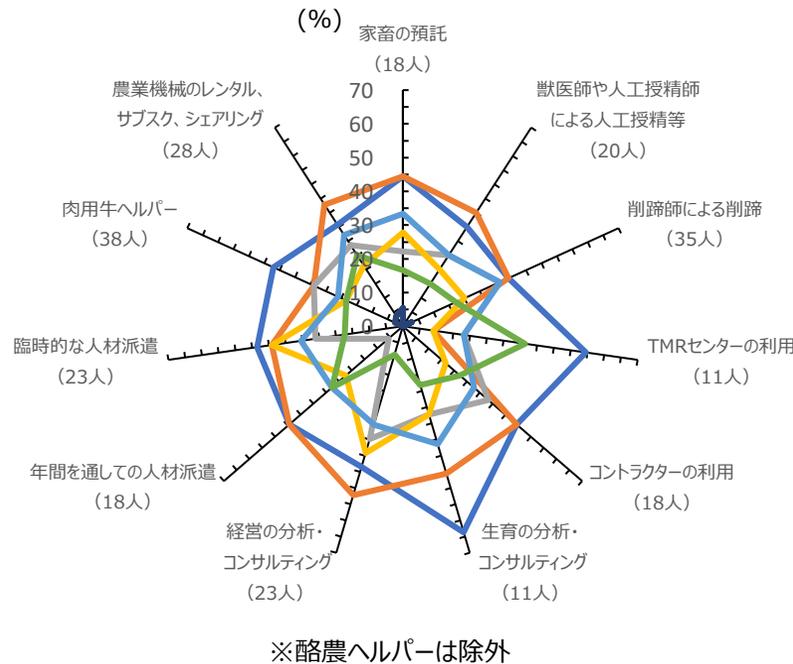
(1) グループⅡの利用課題の分析結果

- グループⅡにおける、将来の利用意向のあるサービスと、調査時点で当該サービスを利用できていない主な理由の関係性は下図のとおり。
- 酪農では、「コントラクターの利用」以外の全てのサービスにおいて、「利用料が高いから」と回答した割合が最も高くなっている。
- 肉用牛では、全てのサービスにおいて、「利用料が高いから」又は「希望する作業の農業支援サービスが見つからないから」と回答した割合が最も高くなっている。
- その他畜産では、「家畜の預託」及び「年間を通しての人材派遣」以外の全てのサービスにおいて、「希望する作業の農業支援サービスが見つからないから」と回答した割合が高くなっている。

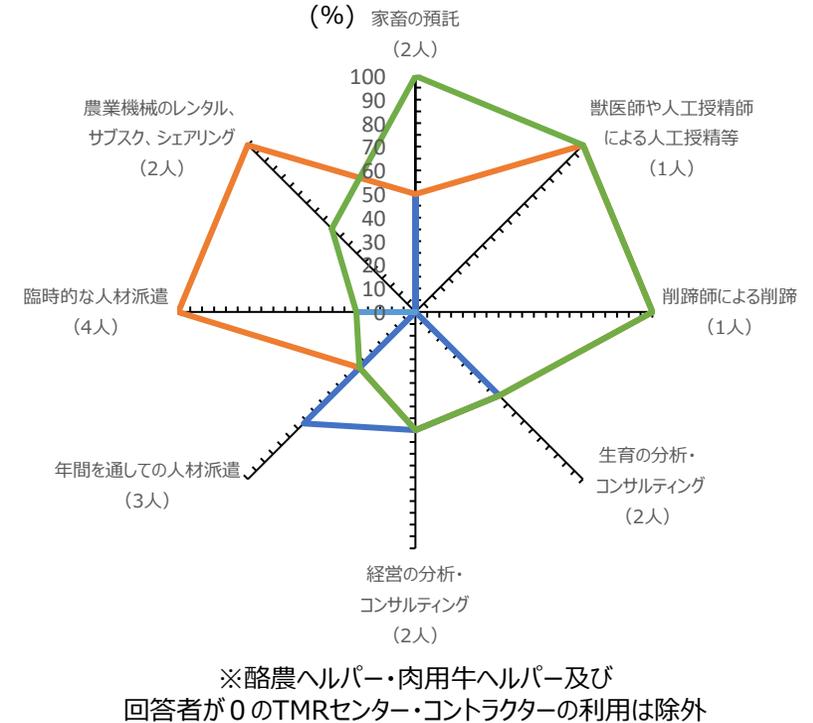
【酪農:78名】



【肉用牛:108名】



【その他畜産:11名】



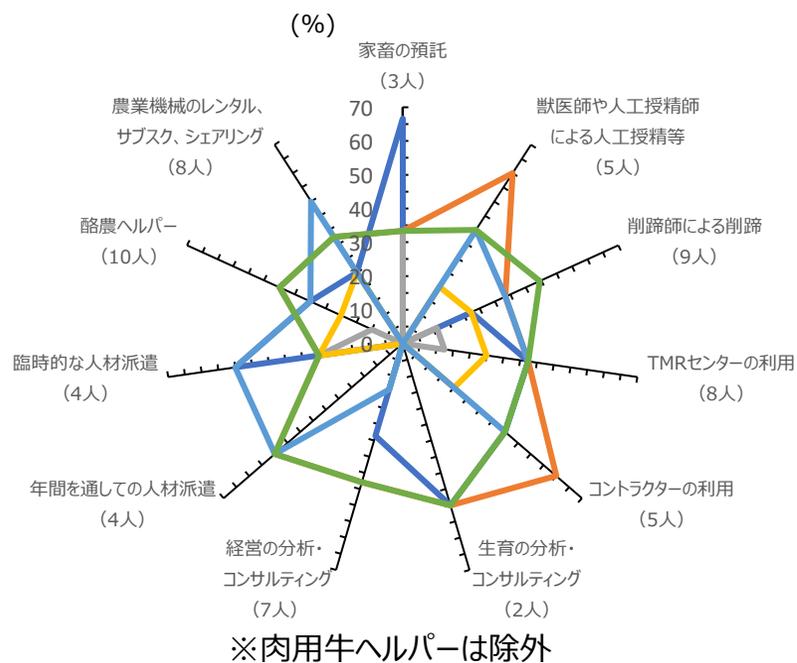
- 利用料が高いから
- 希望する作業の農業支援サービスが見つからないから
- 希望する日時に予約が取れないから
- 手続きに手間がかかりそうだから
- そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない
- 今までは農業支援サービスを利用する必要を感じなかったから
- その他

※サービス内容及び利用できていない理由が共に複数回答のため、具体的なサービスに対して理由は必ずしも一致しない。

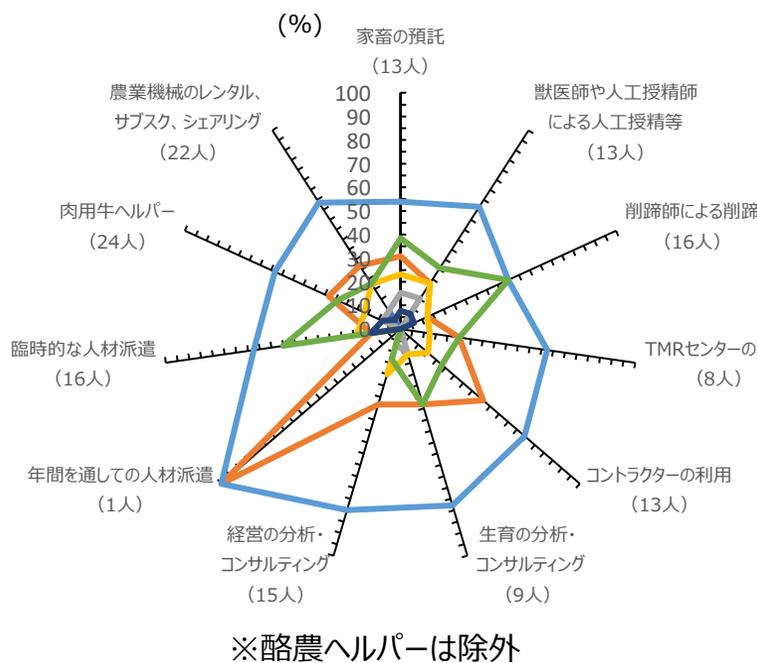
(2) グループⅢの利用課題の分析結果

- グループⅢにおける、将来の利用意向のあるサービスと、調査時点で当該サービスを利用できていない主な理由の関係性は下図のとおり。
- 酪農では、サービスによって利用できていない理由が異なる傾向がある。
- 肉用牛では、全てのサービスにおいて、「そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない」と回答した割合が最も高くなっている。
- その他畜産では、全てのサービスにおいて、「そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない」と回答した割合が最も高くなっている。

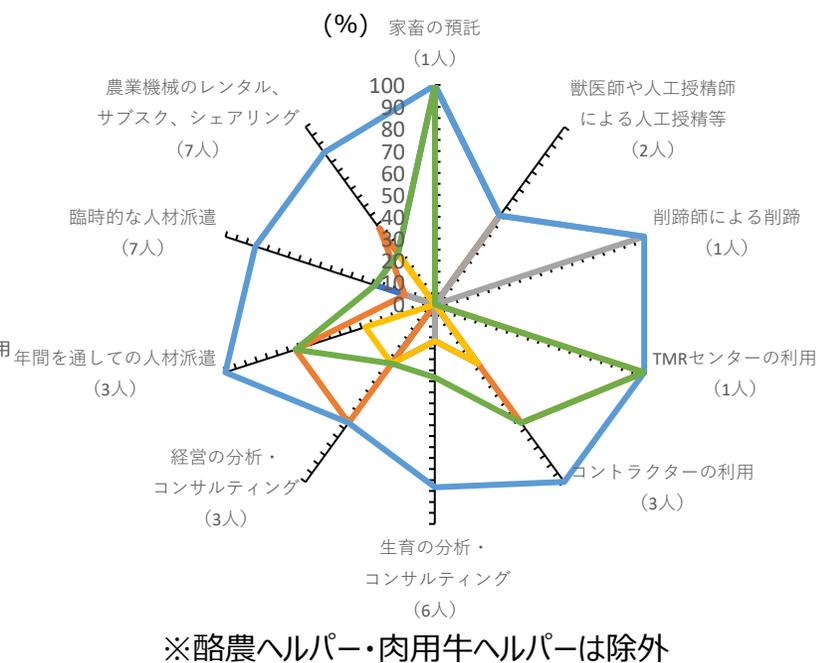
【酪農:22名】



【肉用牛:54名】



【その他畜産:23名】

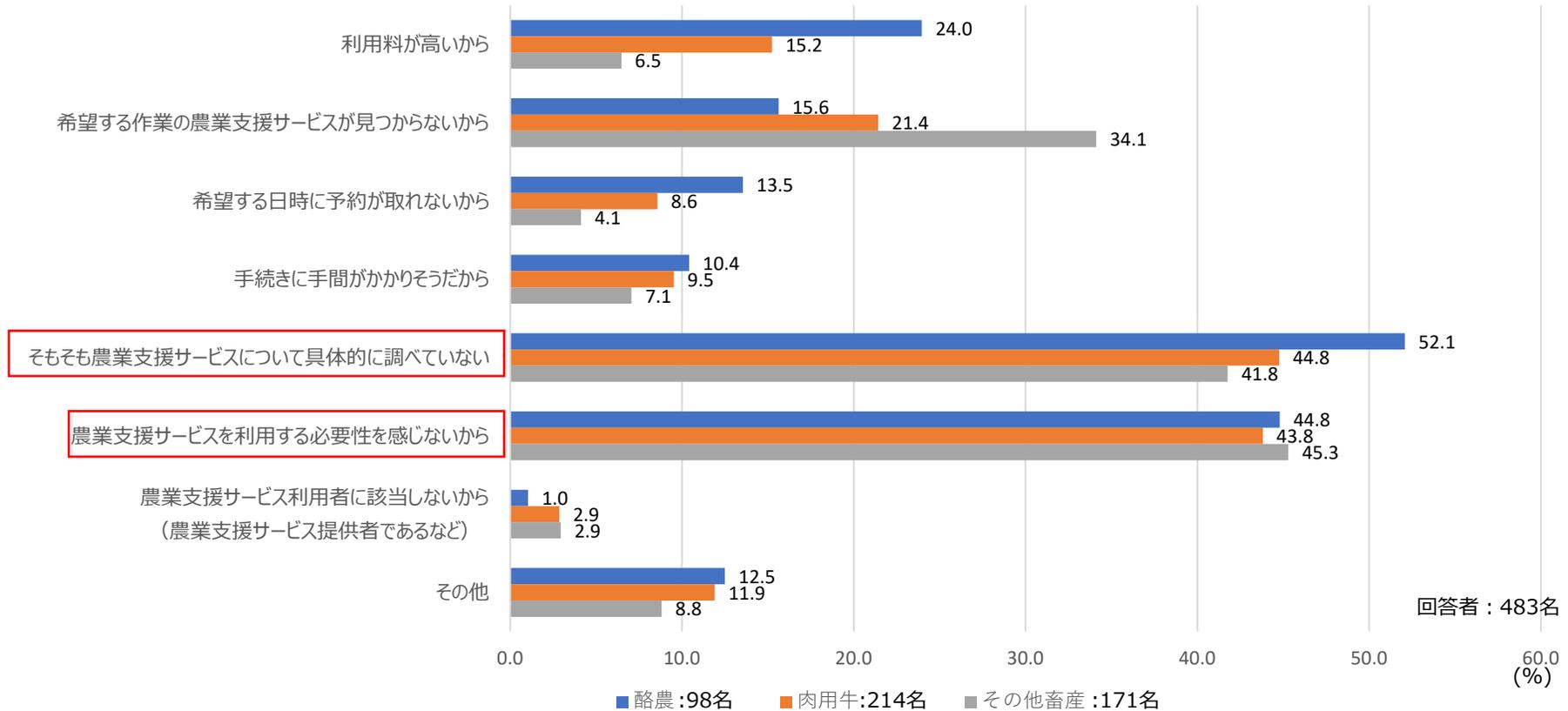


- 利用料が高いから
- 希望する作業の農業支援サービスが見つからないから
- 希望する日時に予約が取れないから
- 手続きに手間がかかりそうだから
- そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない
- 今までは農業支援サービスを利用する必要を感じなかったから
- その他

※サービス内容及び利用できていない理由が共に複数回答のため、具体的なサービスに対して理由は必ずしも一致しない。

(3) グループⅣの利用課題の分析結果

- グループⅣにおける、将来の利用意向がない主な理由は下図のとおり。(複数回答)
- 酪農・肉用牛において、「そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない」と回答した割合が最も高くなっている。
- その他畜産において、「農業支援サービスを利用する必要性を感じないから」と回答した割合が最も高くなっている。

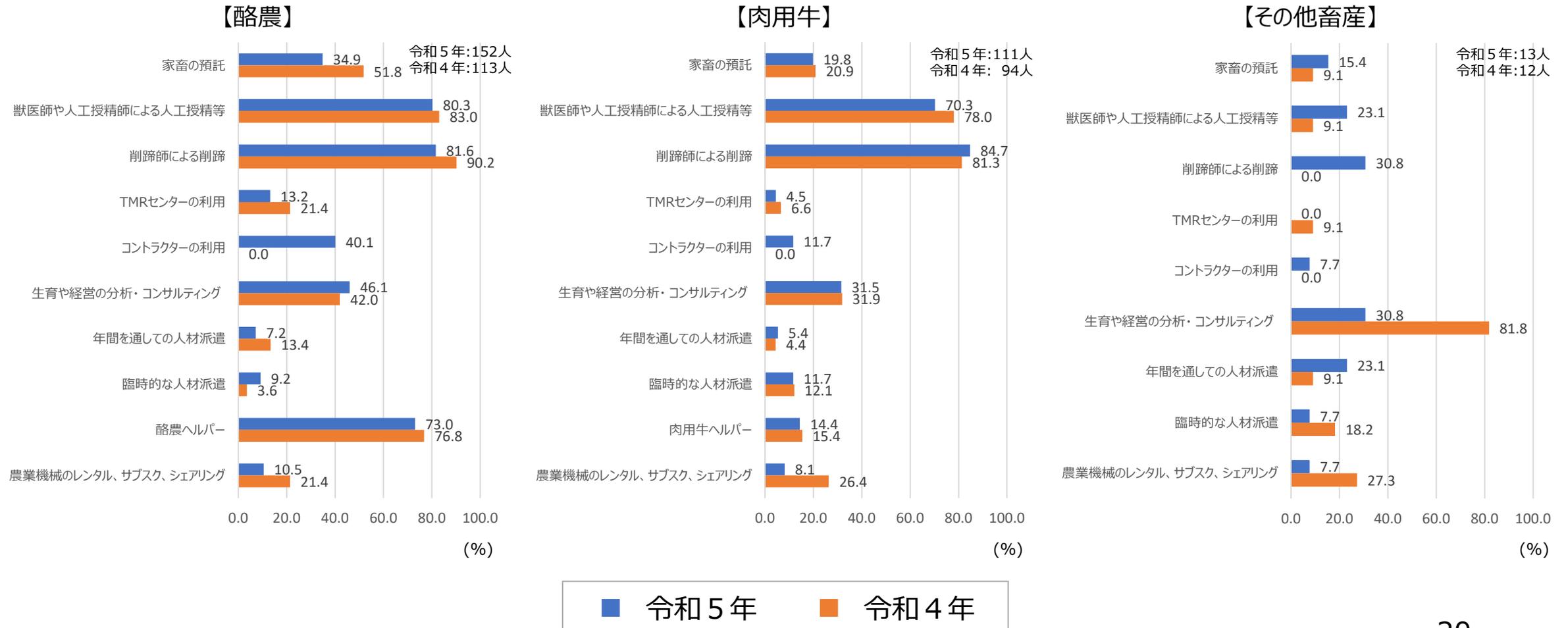


4. 对前年比較

(1) グループ I の現在の利用状況の比較 (R5, R4)

- グループ I における令和 5 年調査と令和 4 年調査の利用状況比較は下図のとおり。(複数回答)

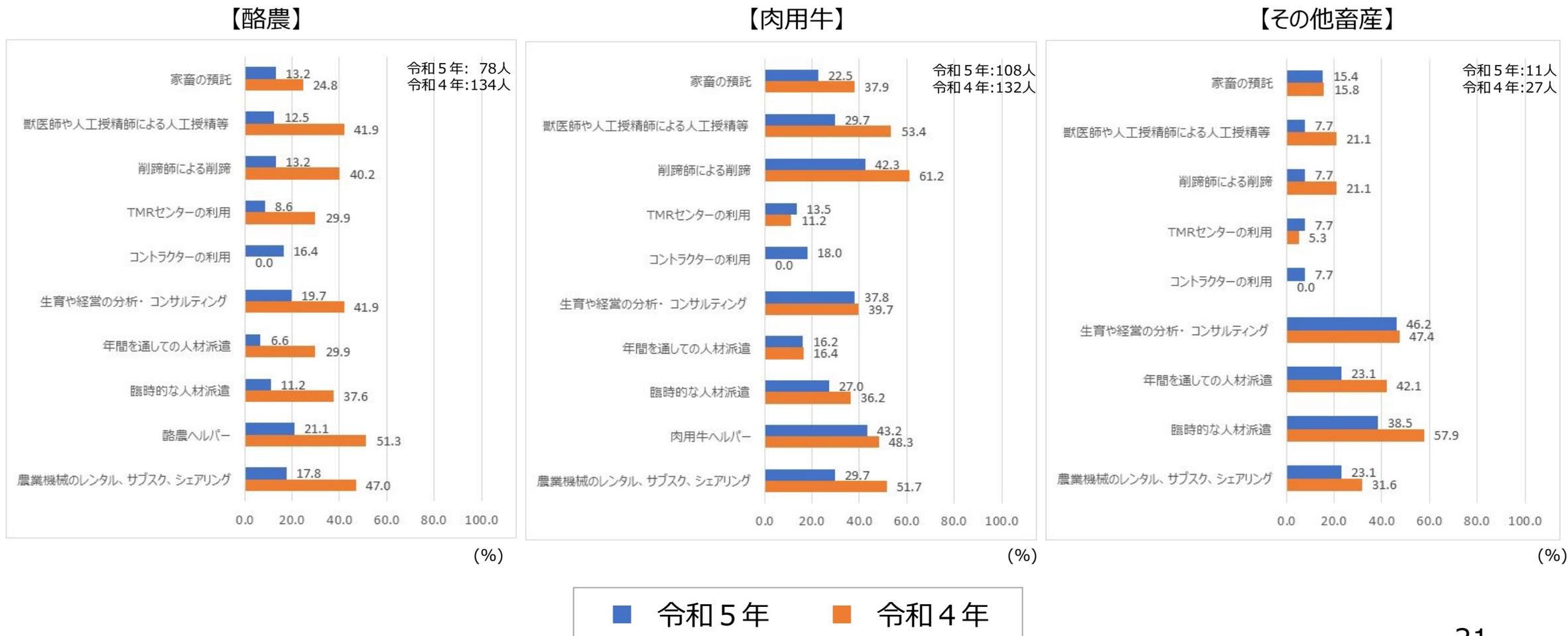
※「コントラクターの利用」は令和 5 年調査で新たに選択肢として追加したため、各部門の令和 4 年のデータは 0 %である。



(2) グループⅡの現在の利用状況の比較 (R5, R4)

- グループⅡにおける令和5年調査と令和4年調査の利用意向比較は下図のとおり。(複数回答)

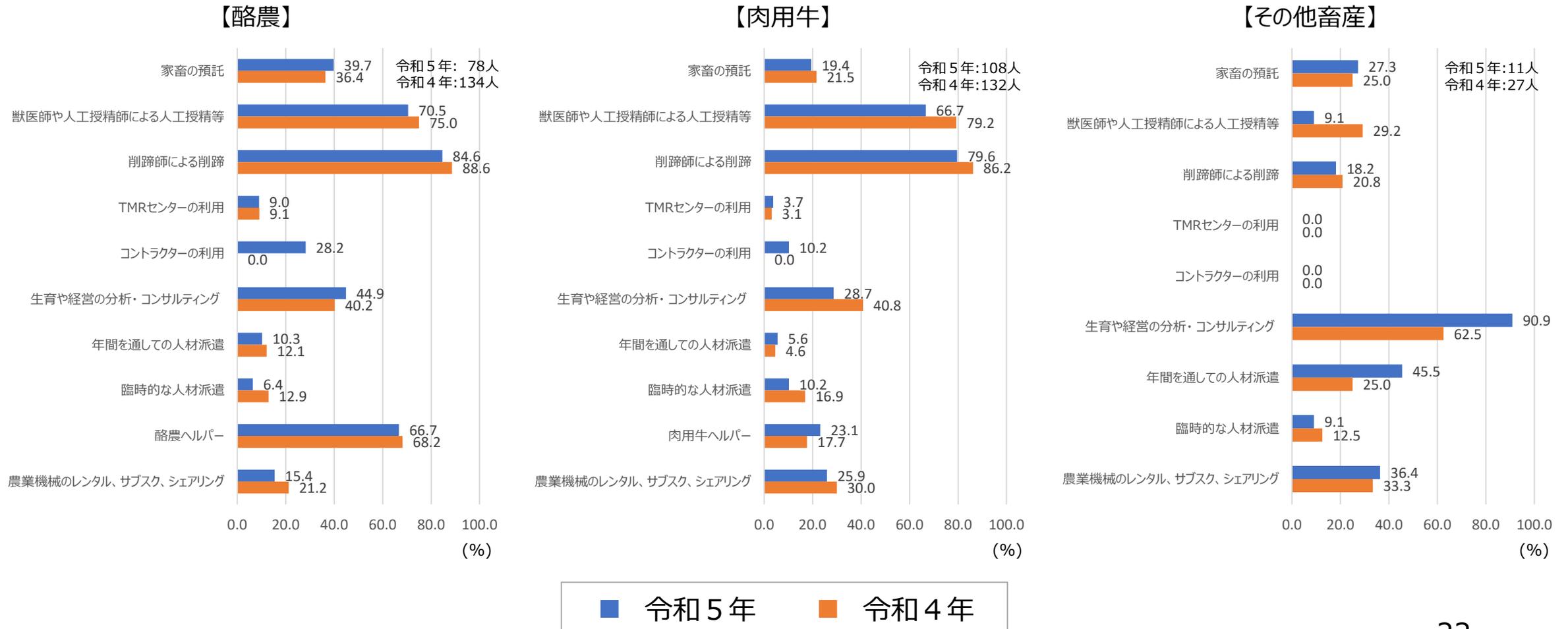
※「コントラクターの利用」は令和5年調査で新たに選択肢として追加したため、各部門の令和4年のデータは0%である。



(3) グループⅡの将来の利用意向の比較 (R5, R4)

■ グループⅡにおける令和5年調査と令和4年調査の利用意向比較は下図のとおり。(複数回答)

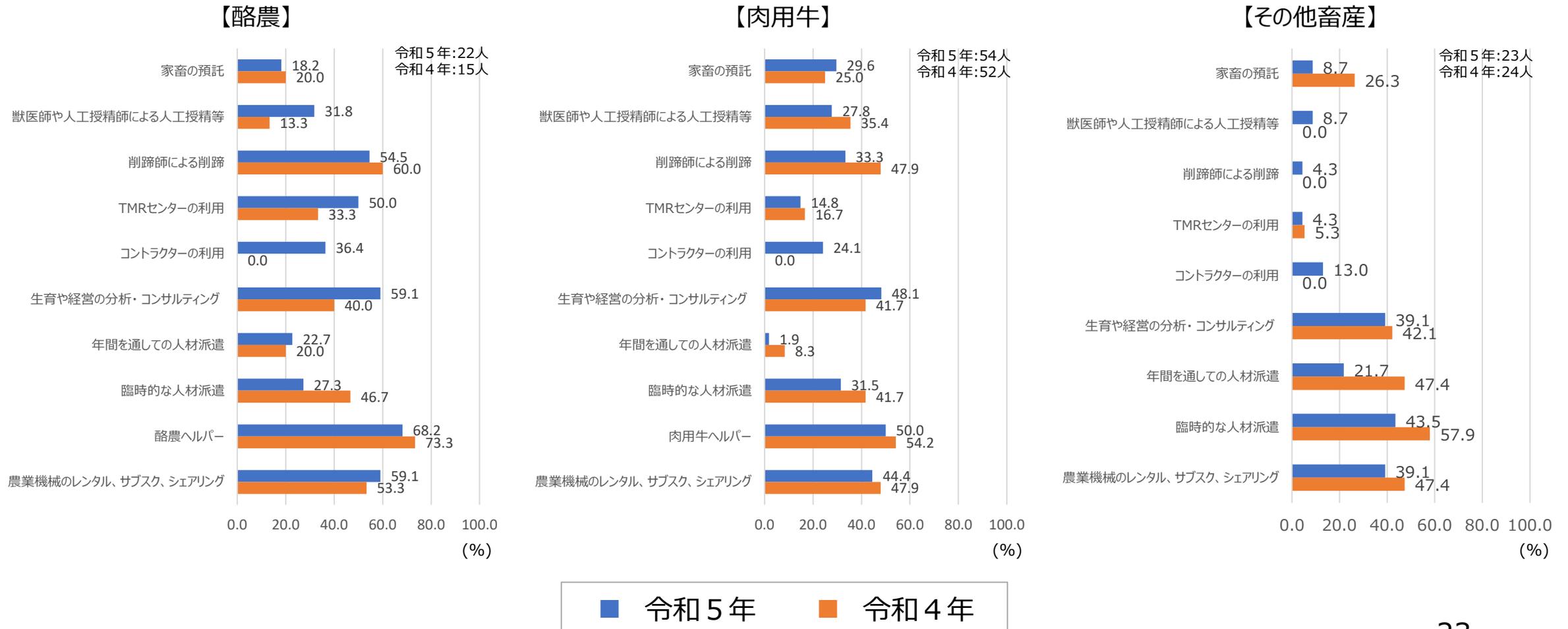
※「コントラクターの利用」は令和5年調査で新たに選択肢として追加したため、各部門の令和4年のデータは0%である。



(4) グループⅡの将来の利用意向の比較 (R5, R4)

- グループⅡにおける令和5年調査と令和4年調査の利用意向比較は下図のとおり。(複数回答)

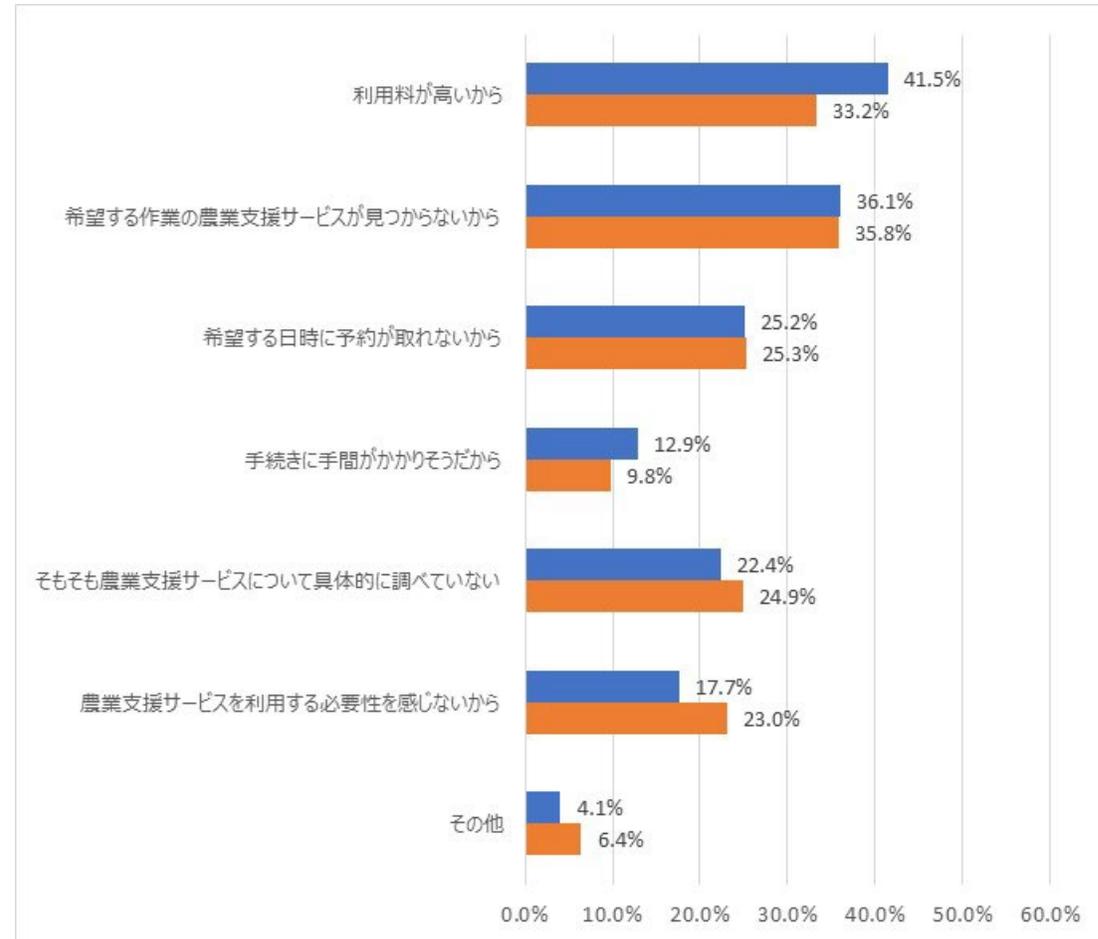
※「コントラクターの利用」は令和5年調査で新たに選択肢として追加したため、各部門の令和4年のデータは0%である。



(5) グループⅡの利用課題の比較 (R5,R4)

■グループⅡにおける利用課題は右図のとおり。(複数回答)

■昨年と同様に有償の農業支援サービスを利用できていない理由として、「利用料が高い」、「希望する作業の農業支援サービスが見つからない」と回答した割合が高い。

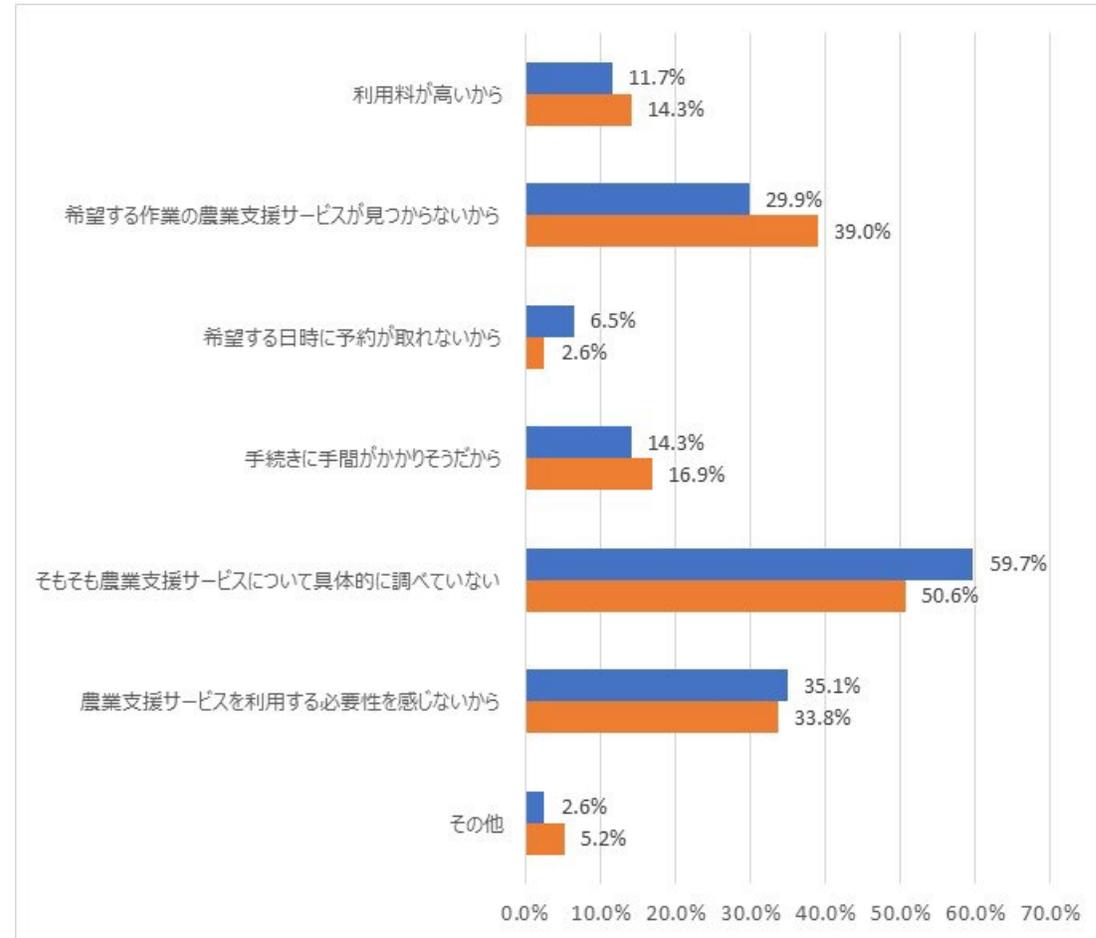


■ 令和5年 (197人) ■ 令和4年 (293人)

(6) グループⅢの利用課題の比較 (R5, R4)

■グループⅢにおける利用課題は右図のとおり。(複数回答)

■昨年と同様に有償の農業支援サービスを利用できていない理由として、「そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない」と回答した割合が高い。



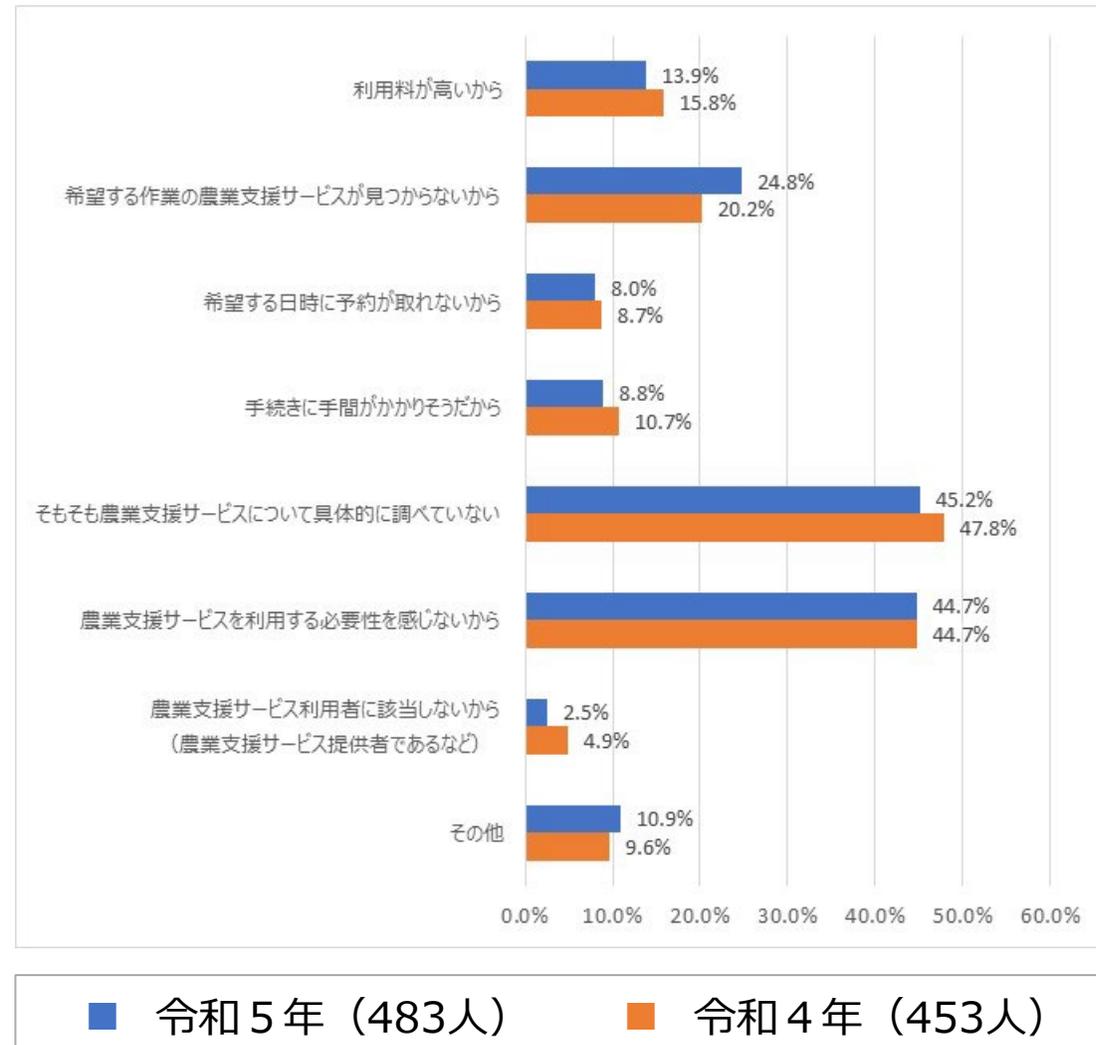
■ 令和5年 (99人)

■ 令和4年 (91人)

(7) グループⅣの利用課題の比較 (R5,R4)

■グループⅣにおける利用課題は右図のとおり。(複数回答)

■昨年と同様に有償の農業支援サービスを利用する意向がない理由として、「そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない」、「農業支援サービスを利用する必要を感じないから」と回答した割合が高い。



(8) 対前年比較のまとめ

- 令和5年度の畜種における、各グループにおける農業支援サービスの利用状況、利用意向、利用課題を令和4年度と比較分析した結果、各グループともに回答項目1位に概ね変化は見られないことが分かった。
- その上で、グループⅡの「利用料金が高いから」やグループⅢ及びグループⅣの「そもそも農業支援サービスについて具体的に調べていない」と回答した農業者などに対して、今後農業支援サービスを普及させていくためには、引き続き利用者のニーズをきめ細やかに捉え、利用者のサービス受容段階に応じた適切なアプローチを行っていくことが重要であると考えます。